

農地を守り、地元密着型の経営に驚嘆の声

食料農業農村議員連盟が市内の農事組合法人を視察

上越市食料農業農村議員連盟の農産物生産部会（岩野虎治部会長）は8日、市内で頑張っている農事組合法人、ファーム高森と北野生産組合を訪ねてきました。どちらの法人も5年前に視察したことがある農事組合法人です。5年間にどう発展してきたか、どういう課題を抱えているかなどを知ることができました。

このうち、清里区の北野生産組合は、集落を守るためにはまず農地を守っていくことが必要と活発に活動している法人です。稲作を中心にしながら、そばやキャベツ、青大豆、越の丸茄子などの栽培に取り組んでいます。

羽深組合長さん（写真中央）などから説明を受けましたが、驚いたことがいくつもありません。稲作では、地元北野だけでなく、青柳、赤



池、さらには平場の菅原の田んぼもやっていると。中山の間地の生産組合が平場まで手を広げて頑張っているのは初めて聞きました。さらには、農繁期には他団体と連携して

仕事をしているというのも感動的でした。とくに秋の稲刈りについては天候に大きく左右されます。刈り取りが遅れそうな時には、農業公社などから応援してもらおうし、逆のこともあるとい

新しい取組としては、学校給食用の豆を生産し、供給していること、7000本の干し大根を作り、地元の食品加工会社に販売していることに注目しました。豆腐用の豆も地元で加工してもらい、地元で完全消費しているといいます。ここでは、地産地消の取組が目に見える形です。そして、視察した議員からは「すごい」という声が出ていました。

今冬の除雪計画発表

業者の担当路線、一部変更

今年度の上越市除雪計画が9日の市議会建設企業常任委員会で発表されました。発表にあたって小林都市整備部長は、「今冬は1月が厳しい予想となっている。市民生活、経済活動への影響を最小限に抑えたい」とのべました。

計画の基本方針は前年度とほぼ同じですが、いくつか見直しも行われました。主な見直し点は、①雪捨て場については渋滞が生じないように、増設する、②交通量や地吹雪時の危険性、周辺の道路状況などを考慮し、除雪を行う路線を見直すとも

車道除雪延長及び除雪車の増減

地区	平成23年度			平成22年度			比較		
	除雪延長 (km)	除雪車台数 (台)	1台当たり除雪延長 (km)	除雪延長 (km)	除雪車台数 (台)	1台当たり除雪延長 (km)	除雪延長 (km)	除雪車台数 (台)	1台当たり除雪延長 (km)
上越市全体	1,699.34	323	5.26	1,692.29	317	5.34	7.05	6	-0.08
合併前上越市	742.55	139	5.34	740.35	135	5.48	2.20	4	-0.14
安塚区	71.39	13	5.49	71.39	13	5.49	0.00	0	0.00
浦川原区	66.86	10	6.69	66.52	10	6.65	0.34	0	0.04
大島区	33.04	19	1.74	33.31	19	1.75	-0.27	0	-0.01
牧区	73.77	16	4.61	73.77	16	4.61	0.00	0	0.00
柿崎区	123.62	16	7.73	124.02	15	8.27	-0.40	1	-0.54
大潟区	78.26	17	4.60	76.65	17	4.51	1.61	0	0.09
頸城区	106.22	19	5.59	104.56	20	5.23	1.66	-1	0.36
吉川区	86.20	11	7.84	85.60	10	8.56	0.60	1	-0.72
中郷区	24.49	10	2.45	24.31	9	2.70	0.18	1	-0.25
板倉区	96.38	18	5.35	95.74	18	5.32	0.64	0	0.03
清里区	51.10	8	6.39	51.10	8	6.39	0.00	0	0.00
三和区	102.83	17	6.05	102.62	17	6.04	0.21	0	0.01
名立区	42.63	10	4.26	42.35	10	4.24	0.28	0	0.02

※除雪車台数はドーザの台数

人形を見るだけでこんなにも心を揺さぶられるとは……。先日、長野市の信州新町を視察した際、道の駅で『人形出合い旅』という一冊の本を購入しました。この本を読んだら、本の中に登場する人形たちについてすっかり惚れ込んでしまいました。

本の著者は飯山市在住の高橋まゆみさん。いまや、全国に多くのファンを持つ人形作家だそうですが、私はこの本を買うまで高橋さんの名前をまったく知りませんでした。ただ、この人の人形の写真は、ある事務所であらうと見たことがありました。その出合いがあったから、道の駅で、「あっ、これはどこかで見たことがある」と手にすることになったのでした。

本には人形の写真とそれにまつわるエピソードが載っています。あぐらをかい足の中に孫を入れて本を読んでやるおじいさん、そのおじいさんの肩につかまって本のぞきこむ小さな女の子。黄色い帽子をかぶった男の子の手を引く、背中の曲がったおじいさんの後ろ姿……。人形から伝わってくる人のやさしさが何とも言えません。そして、私の祖父音治郎や父母との思い出があふれ出てきました。

バスの中で本を読んでいると、隣の席に座っていたY議員がのぞき込み、「この人形はおれもおつかさと一緒に二度、見に行つて来た。いかつたよ。とくに、嫁に行つた娘さんが寝たきりになつたお母さんのそばで眠っているの、たぶん、娘さんもつらいことがあつたんだろね。その娘さんの背中を病氣のお母さんがさすっているのがばかいかつた。ふたりで泣いたよ」と声をかけてきました。

本はバスに乗っている間に一気に読み終えましたが、こんな話を聞くと、じつとしいられるわけがありません。数日後、私は軽乗用車を飛ばして、飯山市の高橋まゆみ人形館へ行ってきました。いつときも早く本物の人形をこの目で見てみたかったです。

人形館に着くと、開館前から入口付近は小学生や大人たちが順番待ちの列をつくつていました。案内係の女性が、「子どもたちで混んでいますから、どうぞどこからでもごらんになってください」と丁寧に誘導してくれました。

まず目に留まつたのは、Y議員がべたべたしていた「母の手」という作品です。写真もよかつたのですが、このお母さんの眼元やさする手は思つていた以上にやさしいものでした。お母さんに声をかけ、手を握つてやりたくくなります。顔のしわの寄り具合などもじつに生き生きと表現されていました。

館の中には本に登場していた人形だけでなく、登場していなかった人形もたくさんありました。それらのなかで「押し車」という作品に強く惹かれました。かなり使い込んだシルバーカーを押しているおばあさんの人形です。

後ろから見た時のおばあさんの丸い背中、もんぺ、そして頭には手ぬぐいという姿は、どこにでもいるおばあさんの姿です。横から見ると、おばあさんの視線がはつきりとわかります。押し車の先つぽを見ていました。正面から見ると、眉毛がやさしくたれさがり、車を押す右手の親指と左手の親指がはねています。鼻は小さくて、かわい。どうしてこんなうまく作れたんでしょうか。立ったり、しゃがんだりしながら、作品をいろんな角度からながめさせてもらいました。

人形館からの帰り、飯山から長沢経由で上越市へと戻りました。途中、何人かのおばあさんを見かけました。不思議なことに、みんな人形のように見えました。

毎年、重点地域を決め観光振興

……長野市信州新町を視察

上越市議会と長野市議会との交流会が4日、行われました。

交流会の前に昨年同市に編入されたばかりの信州新町を視察してきました。

広い市域のなかで長野市

は、毎年、重点地域を決めて観光振興を図ろうとしていますが、今年は、その一環として「信州新町イヤ事業」に取り組んでいました。この方式は上越市でも採り入れたいものです。

この日は長野市立博物館分館である有島生馬記念館、化石博物館などを訪問し、学芸員から説明を受けました。有島武郎の弟に画家の生馬がいて、里見弴も弟であることを初めて知りました。小さな町が文化施設をいくつも持っていたのにはびっくりしました。



「かあさんの歌」歌碑のそばで

交流会では顔なじみとなった前議長さんや日本共産党議員団のみなさんと話すことができました。議会改革のこと、この秋に行われた長野市議選のことなどが話題となりました。

来年の20周年を前に東京吉川会開催

旧吉川町出身者などで構成されている東京吉川会が6日、東京は四ツ谷で開かれ、吉川区からマイクロバスに乗って参加してきました。こちら側から出かけたのは八木総合事務所長、まちづくり吉川の田中代表など17人。今回は同級会などと重なったこともあって全体の参加者は約80人とどまりました。でも、初めて吉川会に参加した人も数人ありました。

総会後の懇親会はいつもと同じく、ふるさとの情報交換などで盛り上がりました。同じ町内会出身者や中

学と同窓生などがあちこちで記念撮影をし、語り合いました。もちろん、お酒も頂きました。私も頂きました。

